

ホンジュラス内政・外交（２０１０年８月）

概況

【内政】

- １７日、自由党本部は、発足後６ヶ月を経過したロボ政権に対する評価報告書を発表した。
- ３０日、政府は、８月５日から４６日間に渡り、賃金・手当等の要求を掲げて公立学校閉鎖及びストライキを行っていた教員組合との合意に達した。他方、国民抵抗運動（セラヤ派）及びいくつかの労組は、最低賃金引き上げ等を要求するストを今後強めていく旨表明した。

【外交】

- ２日、ベリーズを訪問したロボ大統領は、バロウ・ベリーズ首相と会談を行い、カリコム諸国との外交関係正常化を達成するための支援を要請した。
- ７日、ロボ大統領はコロンビアの大統領就任式典に出席し、両国の友好関係を確認した。

【内政】

１ 野党自由党によるロボ政権への評価

１７日、自由党本部は、発足後６ヶ月を経過したロボ政権に対する評価報告書を要旨以下のとおり発表した。なお、一部報道では、同報告書は、自由党党员の入閣（農牧大臣及び天然資源大臣が自由党员）やデファクト政権関係者の政府関係職就任については言及しておらず、深い分析がなされていないという批判がある。

ア. 経済面：

- ①ロボ政権による税制改革は不況時の増税であり、経済理論に反する。また、政変に関する情報操作、法的不安定性、治安問題等により、経済界は明確な展望を打ち出せずにいるため、同税制改革は投資環境向上に資していない。
- ②バホ・アグアン農村土地問題により、法的不安定性が露呈し、国の債務を増加させたため、投資家に悪いメッセージ送る結果となった。

イ. 外交面：政府の重点分野は外交問題に集中し良い結果が得られているが、その分国内問題が疎かになっている。

ウ. 教育制度：ロボ大統領の選挙公約である教育機会均等化及び授業日数の確保が達成されていない。

エ. 保健面：デング熱の予防対策が行われていないため、被害が拡大している。

オ. 治安問題：治安改善対策及び組織犯罪対策が行われていない。

カ. 行政府及び立法府による司法への干渉が見られる。

2 政府と教員組合との合意

30日、政府は、8月5日から46日間に渡り、賃金・手当等の要求を掲げて公立学校閉鎖及びストライキを行っていた教員組合との合意に達した。同合意には、教員年金機構（INPREMA）の外部監査実施、国会に対し INPREMA 関連法案改正案の承認を要請、政府の INPREMA に対する債務の返済、教員法の尊重、教育システムの非政治化等が盛り込まれた。右の結果、31日、国内の公立学校において46日振りに授業が再開した。なお、教員組合側の要求事項の1つであった、ベントゥーラ教育大臣の罷免については、結論が先送りされ、組合員の一部から不満の声が聞かれた。他方、国民抵抗運動（セラヤ派）及びいくつかの労組は、最低賃金引き上げ等を要求するストを今後強めていく旨表明した。

【外交】

1 ロボ大統領のベリーズ訪問

2日、ベリーズを訪問したロボ大統領は、バロウ・ベリーズ首相と会談を行った。右会談において、ロボ大統領はバロウ首相に対しカリコム諸国との外交関係正常化を達成するための支援を要請した。また、同会談においては、中米統合機構（SICA）を通じた関係強化（ベリーズは現在SICA議長国）及び中米三カ国（グアテマラ・エルサルバドル・ホンジュラス）・カリコム間の自由貿易協定の可能性につき協議された。さらに、気候変動問題、域内治安、メリダ・プランの枠組での組織犯罪対策といったテーマにも触れられた。

2 ロボ大統領のコロンビア大統領就任式出席

6日、ロボ大統領は、サントス新コロンビア大統領と会談を行い、両国の友好関係を確認した（カナワティ外相同席）。翌7日、ロボ大統領は同国の大統領就任式典に出席した（ロサ夫人、ボグラン大統領府大臣、カナワティ外相、アルバレス治安大臣、ピネダ人権問題担当大統領府顧問、及びフェレラ検察総裁同席）。また、同7日、ロボ大統領はピニエラ・チリ大統領、フネス・エルサルバドル大統領、デ・アルバ・ハイチ首相らと会談した。